

7 これからの「教育協働セミナー」は?!何が可能で、そして、意義があるのか?!

堂本 彰夫

(1) どこにでもある「教育協働」の動き?!だが、それらは、まだまだ無自覚で、大きな輪となっていない?!

気がつけば、もう随分時日が経ってしまったが、昨年12月10日、第43回教育協働セミナー（この回は、玉城青少年の家との共催→第3回「事例発表セミナー」）が終わった。そこでの事例発表テーマは、「ツナげ、ツナがる 稲作文化～仲村渠なかつんだけり稲作会の地域づくりへの挑戦～」ということで（もちろん、ここでの「ツナ」は、稲束からつくる「綱」!）、発表者は、同稲作会の大城洋介さん（中心人物?南城市職員でもある!）と、予定にはなかった、同じく同会の神谷夫妻（副会長。他県、他地区からの移住者。いわゆるUターン、Iターン組）であった。その活動のきっかけ、発端は、伝統であった、同地域の「綱引き」を蘇らせる、その綱を、自前で設える、そういうところであったそうである!ちなみに、それは、自治会の活動とも連動しているという。

ここでは、紙幅の都合もあり、残念ではあるが、その具体的な活動の紹介はできないが（多分、当日の動画は、主催の玉城青少年の家のHP上にアップされている?!）、そこには、彼らの、地域の人達との地道な関係づくり（実は、これが、なかなか難しい?特に、沖縄は?）、そして、地元百名小学校への学習支援、特に「食育・食の文化学習」につなげられているという話が、私には、とても心に残った!すなわち、ある意味当然?であるが、「やっぱりここにもあった?!『教育協働』の動き?!」ということである?!やる気（思い）のある市役所職員（教育委員会の職務も経験!）、自らの住むべき場所（居場所?）を求めてやってきた、Uターン、Iターン組の若い夫婦、そして、彼らを温かく迎え入れている当該地区の人々（特に区長さん!）、彼らが、まさに、私の言う「地域づくりと人づくりの循環」を、人知れず?創り上げているということである!

しかるに、繰り返すように、「学社連携→融合」「コミュニティスクール」「地域学校協働活動（本部事業）」、最近年では「総合教育政策」というような施策、取り組み、そして、他ならぬ学校教育自体の方からは、「社会に開かれた教育課程」「アクティブラーニング（主体的、対話的で、深い学び）」「カリキュラムマネジメント」というようなことの提唱、また、先号（6）で再び取り上げた「不登校特例校（岐阜市立草潤中学校）」の事例等を見るにつけ、どこにでもある「教育協働」への動きということなのである?!とにかく、そこでは、上記のような「地域づくりと人づくりの循環」が必要なものであり、それを実現させるためのしくみづくり（「ヒト、モノ、コト、カネ」の総合化、協働化）が必須だということである?!

ただし、それらは、これまた繰り返すように、個別に見れば、それぞれ素晴らしい成果を挙げているとは言えるが、まだまだ無自覚で、それ以上の大きな輪となっていない?!そういうことでもあるのである?!要は、みんなそれぞれ、精一杯頑張っているが、なかなかそこにある大きな壁や隘路の打破、超克には至っていない?!そこが、図らずも残念であり、今一步、何とかならないかということでもある!

ちなみに、ここでは、かなり唐突ではあるが、一方では、ある意味壮大な取り組みではあるが、ユネスコ提唱の「学習都市 learning cities」（フォーマル教育とノンフォーマル教育の融合的進展!）の取り組み、あるいは、「SDGs」に関わる「DX（digital transformation）化（ICT/AI/IoT）」や「GX（green transformation）化（地球温暖化対策）」、そして、それに直結している「ESD（education for sustainable development）」を進める世界的な動きもある!それらは、まさに、「教育協働」の動きやしくみづくりを求める大きな流れとなっているのでもある?!

(2) 重要なのは、「ヒト（思いをもつ人）」「素材（解決すべき課題）」「地域（生活の場）」!「教育協働」は、それらをいかに発見（自覚）し、それらをいかに有効に結び付けていくのかである!

ということで、ここで言いたいことは、このように、「教育協働」の契機・切り口は、様々な取り組みに伏在しているということであるが、しかし、そうは言っても、他方では、次から次へと生起する、眼前の様々な課題・困難（最終的には財政面!）、さらには、これまでには遭遇したことのないような大事件や災害（大地震や台風、水害等）、そして、長引く新型コロナウイルス感染症の災禍、某国の、それこそ信じられないような暴挙（他国への侵攻）等も加わり、我々の生活全般に関わる危機（物価高騰を含む）、これまでの常識、社会枠組みを根本から覆すような混乱が、様々な形で進行しているのでもある?!その中で、関係者達は、精一杯自らの職務・役割を遂行し（もちろん、教育の分野でもそうであるが!）、もうこれ以上は頑張りようがないというくらいまで追い込まれているのも事実である?!

果たして、このような状況（心境?）で、何が出来るというのか?!つまり、そうした困難な状況にあっても（ある意味、だからこそ?）、「『地域づくりと人づくりの循環』が必要なものであり、それを実現させるためのしくみづくり（『ヒト、モノ、コト、カネ』の総合化、協働化）が必須なのである」と言っても、なかなか

それは、全体には広がっていかないし、出来れば、これ以上の負担や労力を割きたくないと思う人が出てきても、まったく不思議ではないということでもある(理想と現実の狭間?)?!ただし、そうは言っても、そこに微かに(辛うじて?)見えているのが、それでもなおかつ(ここが重要である!)、自らの困難、さらには被害や苦悩を乗り越えて(自らの生活や立場を犠牲にして?)、新たな生活、新たなしくみづくり、そして、新たな人づくりに邁進しようとしている人達がいるということである(やはり素敵な人間はいるのである!)?!

現に、これまで活気を無くしていた?、あるいは「生涯教育/学習の振興」と言う、ある意味馬鹿でかい壁(妖怪?)に立ち向かい、様々に頑張ってきて、しかし結局は力尽きたようになってきている?社会教育(行政)の意義と必要性を再認識し、再び元気に立ち上がろうとしているところもある(例えば「島根県」のように?→大判『社会教育』2023年1月号)!要は、様々な思い、取り組みに伏在している「教育協働」の契機?!それを、誰(どこ)かが気づき、広げる、そしてつなげる!それは、誰でもいい、どこからでもいい!それらが、つながっていることが重要だということである!

だが、今、多くの人達が注目する「素材」(表面に現れている切実な問題点・課題、トラブル、事件・事故等の発生可能性?)は多いのであるが、その共有/共通の土俵としての「地域」、それを進めている「ヒト」が、現時点では、散発的、局所的であり、その動きは、まだまだ芳しいものではない?だから、問題は、誰(どこ)が、それを発見(自覚)し、つなぎあわせるのかであるが、それが見えていない?!実は、そこに「教育協働」の目的が出てくるのであり、その実現を導くのが、「地域教育経営」というスタンスなのである!

(3) 様々な思い、取り組みに伏在している「教育協働」の契機?!それを、誰(どこ)かが気づき、広げる?!それは、誰からでもいい、どこからでもいい!まずは、それらが、つながることが重要なのである!

そんな中、改めて思い起こさせるのが、大学の卒業生達も含めた、多くの人達との出会いである!いろいろな人/学生達がいた!そして、夢(ある人にとってみれば苦勞、否、苦悩?はたまた愚痴の聞き手?)も共有した(ある一時期であっても!)?!彼らは、今、どこで、何を思い、どのように生きているのか?例えば、社会教育と出会った、社会教育を知ったことが(本当は、「教育全体」であったのであるが!)、現在、どのように、彼らの生活、そして、彼らの職務や活動に息づいているのだろうか?単なる思い出?、貴重な経験?、それとも後悔?それこそ、いろいろあろう!個々人の人生という意味では、まさにそういうことであろう?!

とは言え、今ここで私自身の心残り?があるとするれば、やはり、そうした「ヒト」のつながりの希薄化である!思いのある人、何かを実現、あるいは何かを変えなければと思っている人は、それこそ、どこにでもいて、その人なりに頑張っている(きた)わけであるが、要は、如何せんそれらが、ある時から(卒業とか、就職とかを含む)、それらとは直接関係のない(本当は、そうではないのであるが?教職の場合は、特にそうである!)分野・場所、あるいは部署・機関へと、それこそ、活躍の舞台を変えていってしまうのである!

こちら側からすれば、同じ顔触れ、同じスタンスで、ずーと一緒に頑張っていけないということであるが、それは、ある意味、社会(直接的には、いわゆる「ノンフォーマル教育」としての「社会教育」)の宿命ではあるが、持続的な活動や取り組みの協力関係が結べない、作れないということでもある!しかも、それぞれには、それぞれの思い・生活がある!それは、私自身がそうであったように!そういうことでもある!

だから、今の私の現実としては、それを、かなり悲観的ではあるが、新たに出現している、かの「社会教育士」のみなさんに(もちろん、名乗っている人ばかりではないが!)、そして、玉城青少年の家(→社・沖縄じんぶん考房)のみなさんのような「ヒト」に思いを寄せざるを得ないのであるが、そうした「ヒト」への思い・やる気が、少しでも他の同じようなみなさんへと届き、そして、それがまた、大きな地域づくり、教育協働へのしくみづくりにつながっていくことを、改めて期待したいということになるわけである!だが、それは、今(から)の私にしてみれば、まさに「託すこと」以外に術はないということでもある!

しかも、実を言うと、さらに残念ではあるが(悔しい?)、私自身が呼びかけてきた、現在の「教育協働セミナー」自体の役割は終わった?!思いとは裏腹に、事実上、力が尽きた?否、思いの熱量が下がったと言ってもよい?!そういうことも名状しておきたい(ということは、「(新)教育協働への道」も、ある意味ここで終わり?)!とは言え、書きたいこと(書かなければいけないこと、否、私が書けること?)は書いた!順不同で、さほど体系的でなかったが、私なりに精一杯書いてきた?!だから、未練はない(本当である!)!

結局は、そういうことでもあるが、ならば今後、何が可能で、意義があるのか?!それを追求していかなければいけない!そうしたことを、改めて受け止めながら、次なる形を模索していかなければいけない!今月(1月)28日(土)に予定している「第44回セミナー」では、そういうことも話題としたいのであるが、参加者のみなさんから、大いに意見・要望をもらい(ただし、なかったらどうしよう?!)、そこからまた、具体的なアクションを起こすことも一計であろう?!現実的には、かなり厳しい自己決定、自己選択を迫られるであろうが、それが今の私の立ち位置であることは、おそらく間違いない?!そう思う次第である!(つづく?)